

「新撰組、近藤勇の墓が米沢にある？」

今年の4月29日、私どもは久しぶりに郷里の米沢に帰っていました。このゴールデンウィーク期間中は全国の他の地域と同じように米沢でも春祭り「上杉祭り」が行われます。私が子どもの頃はちょうど桜の満開の時期と一致し、それは華やかで賑やかな雰囲気でしたが、近年は次第に桜の開花時期が早まり、祭りの期間中はすっかり葉桜になっていました。しかし今年は4月の天候不順のお陰で桜の開花時期が遅れ、この日はちょうど桜が満開となり、往時の華やかさを醸し出していました。

上杉祭りは4月29日から5月3日まで開催され、期間中米沢の歴史にちなむ様々な行事が行われます。29日は野外ステージでの各種文化芸能団体の演奏や演舞、それに続いての民謡流しと米沢ゆかりの人物による時代行列、5月2日の夜は武締式が行われます。これは上杉謙信が戦に先立ち軍の守護神を招き戦勝を祈願する儀式です。3日午前中は上杉軍団の行列の行進、午後は河川敷で上杉軍と武田軍の川中島合戦の再現が行われます。私も小学校5年のときは稚児として大きな幟を持って、中学校2年のときは神輿の担ぎ手として参加しました。

さて表題の近藤勇の件です。時代行列では古い時代順に米沢にゆかりのある人物がその時代の衣装を着て行列します。今年は平安時代の絶世の美人の小野小町、源義経の家来の佐藤継信、忠信兄弟、那須与一、遅れてきた戦国武将の伊達政宗などなじみの人物が出ていましたが、幕末の時代になって新撰組の近藤勇が登場してきました。「エー、何で近藤勇、米沢に来たなんて聞いたことはないのに？」とびっくりしましたが、プログラムには「新政府軍と旧幕府との戦争により、新撰組は次第に追込まれ、近藤は新政府軍へ投降し斬首されてしまった。その後いとこの近藤金太郎が米沢の鍛冶町にある高国寺へ持ち帰り埋葬されたと伝わります。」とあります。生前には米沢には直接関係なく、死後この地に埋葬されたという訳です。私は米沢の歴史について多少は知っていると思っていたのですが、これは流石に驚かされました。しかもこの寺のある鍛冶町は母の実家があるところで私も子どもの頃は其の界隈で遊んだものですが、今の今までこれについては全く知りませんでした。私の最初の勤務地は会津若松市の武田総合病院でしたが、近藤

勇のお墓があると知って「何で？」と不思議に思ったのですが、今回はそれ以上の驚きでした。そこで近藤勇の最期と埋葬の状況について調べてみました。

新撰組が実質的に活躍したのは将軍の上洛にともなう警護の目的として京都に向かった文久3年(1863)3月から明治2年(1869)5月函館で土方歳三が戦死する6年間でした。もっとも華々しい活動は元治1年(1864)に長州藩士を中心とする尊皇攘夷派の京都焼き打ちの謀略を未然に防いだ池田屋事件だったでしょう。その後は明治元年(1868)1月の鳥羽・伏見での薩長軍との戦闘で隊員の半数近くが戦死するという壊滅的な敗北を期し、近藤勇も右肩に銃創を負いました。15代将軍徳川慶喜は錦旗を押し立ててくる薩長軍に対して戦意を失い、慌ただしく大阪城を退去し、海路、江戸に戻ってきました。新撰組もそれに従いました。慶喜は後の処理を勝海舟に任せて恭順の意を表わすため上野寛永寺に蟄居しました。その勝は新撰組に新政府軍が到着する前に甲府城を確保するよう命じ、近藤、土方を大名扱いとして甲陽鎮撫隊を編成し、勇躍江戸を起って甲州に向かいました。一説には時代の流れが見えない新撰組を江戸城の無血開城の障害になるとして体よく追っ払ったとも言われています。甲府までの道のりは近藤勇や土方歳三の故郷である八王子を通ります。そこで故郷に錦を飾る形になった近藤達は人々の大歓迎を受け飲めや歌えの宴会が重なり、いたずらに日時を費やしてしまい、甲府に着いたときは既に城は新政府軍の手に落ちていました。

新政府軍は最新装備の1200の軍勢、それに対する鎮撫隊は140人程であり装備も一時代前のものでした。剣士として修業してきた近藤達にとっては銃撃が主体となる近代戦は勝手が違い、さんざんに打ち破られバラバラになって敗走するしかありませんでした。そして江戸に戻りましたがそこに居場所はなく、千葉県の流れ山に拠点を立ててそこで隊士の募集や訓練をして再起を図っていましたが、政府軍に包囲されてしまいました。土方や一部の隊士らは幕府の残党とともに会津方面に逃走しましたが、近藤は大久保大和の偽名を使い板橋の新政府軍総督に出頭しました。なぜそのような行動をとったかは諸説がありますが、「右肩を負傷しもはや剣士として生きる道はない、自分はやれるだけのことはやり最後は大名の身分にも成れた、これで十分だろう。」という燃え尽き症候群の境地になったのでは

ないかと思えます。しかしなぜ本名を名乗って堂々と降伏しなかったのでしょうか。偽名を使えばあわよくば見逃しもらえるかも、そして故郷に戻って自分の人生をリセットできるかもしれないというはかない夢も見たのかもしれませんが。哀れさを感じさせます。

しかし政府軍の中に近藤の顔をよく知っている者がおりすぐ見破られてしまいました。そして明治元年4月4日捉えられて投獄されました。近藤は獄舎の中で「孤軍たすけ絶えて俘囚となる。顧みて君恩を思えば涙さらに流る。一片の丹衷よく節に殉ず。睢陽千古これ吾がともがしら。他になびき今日また何をか言わん。義を取り生を捨つるは吾が尊ぶ所。快く受けん電光三尺の剣。只まさに一死をもって君恩に報いん。」と辞世の詩を残しています。近藤の一途な思いが感じられますが、その主君であった慶喜は多数の幕臣や会津藩を見捨てる形で恭順し、結果として死一等を減じられ水戸に蟄居と処分されました。その差はあまりにも違いすぎ、歴史の不条理を思わざるを得ません。

近藤は4月25日、斬首という形で処刑され、首級は板橋宿外の一里塚に曝されました。遺骸は滝野川村（現東京都北区滝野川）寿徳寺に仮埋葬されました。首級は数日曝されたあとに火酒（焼酎？）に浸けられて京都に運ばれ三条河原に曝されたと伝えられています。その行方はさる中国地方の大家の家老が密かに埋葬したとか、さらに大阪などで曝された後にどこかの刑場に密かに葬られたなどの説があります。

こうしてみると米沢には何のゆかりもないように思えますが、近藤勇の墓というキーワードを用いてネットで探してみると下記のようなものが見つかりました。

1. 東京都北区滝野川 寿徳寺：首は京都に送られ、胴体は近くの無縁仏をまつる塚に埋葬されたとされる。明治9年に新撰組幹部の永倉新八らが、この場所に近藤ら隊士の墓碑を建立、毎年近藤の命日に新撰組隊士の墓前供養祭が行われている。1999年には、寿徳寺と地元住民らが「近藤勇と新撰組隊士の墓所保存会」を発足し、墓所の保存と整備を進めている。
2. 福島県会津若松市 天寧寺：近藤の死を悼んで土方が建立したという。戒名の「貫天院殿純忠誠義大居士」は松平容保公が近藤勇のために贈ったものであると言われている。墓に葬られているのは、京都の三条河原から新選組隊士が奪ってきた首であるとも、また遺髪であるとも言われているが明確ではない。

3. 東京都三鷹市 龍源寺；近藤勇の娘婿勇五郎(勇の長兄音五郎の次男)、勇五郎の子久太郎、新吉の墓がある。板橋の刑場で斬首された勇の遺骸を勇五郎や門人達が夜韻に紛れて運び出し、この墓所の地下に埋葬したとされている。しかし首のない遺体をどのように確認したか、今はわからない。
4. 愛知県岡崎市 法蔵寺：京都三条大橋西に晒された首級を同土が三晩目に持出し近藤勇ゆかり京都誓願寺に持ち込んだ。この塚は近藤勇と縁のあった京都誓願寺の住職がこの法蔵寺の住職になったため、土方歳三ら新選組の同土達とこの寺に埋めたとされている。逆賊という事でわからぬ様埋めていたが昭和33年京都誓願寺で記録が見つかり、また他にも文献が見つかり照合した結果この地を掘り返し、台座や遺品なども出土したそうです。胸像は後から建てられた。近年この塚は近藤勇の親族関係者の努力で整備され胸像も建てられた。
5. 山形県米沢市 高国寺：京都・三条河原にさらされた後、行方不明になったというのが通説。その一つに米沢で織物業を営んでいた親せきの近藤金太郎が持ち出して焼き、同寺に埋葬したという。同市の「近藤勇のロマンを語る会の会員ら約40人が4月25日の法要に参加。その後、首が葬られたとされる墓に手を合わせ、剣豪の遺徳をしのいだ。29日の米沢上杉まつり・米沢時代行列で近藤勇に扮(ふん)する、飲食店経営宇井清美さん(40)＝同市舘山5丁目＝は「尊敬する歴史上の人物。しっかり演じてみせると墓前に誓った」と話していた(写真)。

以上をみてみますと、どれももっともらしい伝説があり、どれが本当の墓だと詮索するのは野暮にも思えます。近藤勇が140年以上たった現代においても、毎年各墓所で法要が営まれているというのも、近藤等の一途な思い、生き様に共感する人が多いからでしょう。その一つに郷里の米沢があるというのは大変嬉しい限りです。

写真は2010年4月25日に米沢市 高国寺で開催された法要の様子

